Vol.839　（月刊）毎月１日発行　Kenko Shinbun　2026年（令和８年）１０月１日　無料

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人　新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原６－７－１
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十四年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

常識

そもそも真の信仰とは、言語行動が常識にはずれない事を主眼としなければならない。世間よくある神憑式や、奇怪な言説、奇矯なる行動等を標榜する信仰はまず警戒を要すべきである。ところが多くの人はそういう信仰をかえって有り難く思う傾向があるが、これらは霊的知識のないためで無理もないが、心すべきである。また自己の団体以外の人々と親しめないというような独善的信仰も不可である。真の信仰とは、世界人類を救うのが宗教の使命と信じ、自己の集団のみにこだわらず、排他的行動をとらないようにするのが本当である。丁度一国の利益のみを考え、他国の利益を無視する結果、惨澹たる敗戦の苦杯をなめる事になった終戦前の日本を鑑みれば分かるであろう。

私は信仰の究極の目的は、完全なる人間を作る事であるとも思う。勿論世の中に完全という事は望み得べくもないが、少なくとも完全に一歩一歩近づかんとする修養――これが正しい信仰的態度である。故に信仰に徹すれば徹する程、平々凡々たる普通人のごとくに見えなくてはならない。そうなるのは信仰を咀嚼し、消化してしまったからである。その人の言動がいかにも常識的であり、万人に好感を与え、何を信仰しているか分からないくらいにならなければ本当ではない。人に接するや柔らかき春風に吹かれるごとく社会福祉の増進を冀うようでなくてはならない。私は常に言う事であるが、まず自己が幸福者たらんとするには他人を幸福にする事で、それによって与えらるる神の賜物が真の幸福である。然るに自己のみの幸福を欲し、他人を犠牲にするというがごときは、全く逆効果以外の何物でもない事を知るべきである。

浄霊体験記　1ページ 2ページ 3ページ

- 八年間苦しんだ蓄膿症 二ヵ月で楽に…
- 絶望的な状態も 短時日で奇跡的に！
- 虚弱体質だった私が ここまで生かされて…
- 不安から救われ 元気な日々へ…

ネパール　蓄膿症

八年間苦しんだ蓄膿症 二ヵ月で楽に…



シャングジャ出張所
ラム・バハドール・グルング（49）

私は十二歳の頃から蓄膿症で苦しんでいました。そのため頭と額がよく痛み、鼻水も出ていました。さらに鼻の周りの骨にも痛みがあったので大変でした。たくさんの医者に診てもらい、家庭療法や漢方薬も試してみましたが、良くなることはありませんでした。

一九九七年十二月、私が二十歳の時のことです。道端で偶然友人に会ったので、蓄膿症で困っていることを伝えると、友人が「浄霊を試してみたらいいよ。私は辛かった腰痛が良くなり、信じられないほど元気になった…」と話してくれました。私は浄霊を受けたい気持ちになり、それから一週間後に、ポカラ地方にあるヒマリトール連絡所に行きました。

私は良くなりたい一心で、毎日浄霊を受けました。浄霊を受け始めて十一日後に風邪を引きました。頭痛もしていたので、体が動かせない日もありましたが、その時から一週間程、黄色い鼻水が出るようになりました。これは「浄化作用」と言って、熱で溶かされた体内の毒素が体外に排出されるということでした。

このようにして毎日鼻水が出て、さらに浄霊を受けることで蓄膿症は徐々に楽になっていき、浄霊を始めて二ヵ月で完全に良くなりました。私はとても嬉しくなり、一九九八年三月三十日に入会しました。

そして、この浄霊を多くの方に伝えたいと思い、二〇〇三年、二十六歳からは新健康協会で働くようになり、現在ではシャングジャ出張所の責任者となりました。

一人でも多くの方に浄霊を体験してほしいと願っています。

（ネパール・シャングジャ）

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

胃の激痛

絶望的な状態も短時日で奇跡的に！

山鹿支部
小池祐生（こいけゆうせい）（72）



私は中学生の頃から心臓が悪かったため、大学病院などの大きな病院で検査しましたが、回復は難しいと言われ、その都度ガッカリして帰ったものでした。しかし、それでは心細いので、ホンの気休めに過ぎませんでしたが、薬も幾種類か服用していました。また、胃腸が弱かったので、何度もバリウムを飲んで検査をしました。さらに、健胃剤や消化剤などもよく服用していました。

一度胃けいれんを起こし、注射をしてもらったところ、たちまち痛みは治まったのですが、その後、急に胸が苦しくなり、脈も速くなり、気を失いそうになりましたので、また病院へ後戻りしました。

盲腸炎を起こした時も心臓が悪く、手術というとこでしたが、手術が心配になり、これも注射で止めました。

私は「農家の後継ぎ」として実家の農業に携わっていたのですが、体が弱く、満足に仕事が出来ずに困っていました。

昭和五十年の十一月末、私が二十一歳の時、熊本県の芦北に住んでいた姉が「こういう新聞があるから…」と健康新聞を持って来てくれました。半信半疑ながら、これで体調が良くなるのであれば…という思いで、すぐに新健康協会の山鹿支部に行きました。

変化に驚いた…

支部では一体どんなことをするのだろう…と思い、恐る恐る浄霊を受けましたが、ただ手をかざすだけでしたので、本当にこれで良くなるのだろうか…と思いました。しかし、健康になりたい一心でしたので、暫く浄霊を続けることにしました。

浄霊を受け始めて十日が経った朝方、吐き気で目が覚め、一度吐いてしまいました。そしたら急に胃が痛み出したので、父に支部まで連れて行ってもらいました。浄霊を受けている時も痛みが強くなり、まるで胃全体を握りしめられているような感じでした。その後も吐いては痛みが和らぎ、また痛んでは吐いて和らぐ…といった感じでした。そうしている内に、痛みが落ち着いたので、一度家に帰りました。

夕方になると、支部の責任者の方が浄霊のために自宅に来てくれました。体力も大事だということで、お粥を食べましたが、嘘のように美味しく頂くことが出来ました。それでも胃の痛みは続いていましたが、徐々に痛みも落ち着いていきました。そうしている内に眠気がさすようになって来まして、いつの間にか眠っていました。

翌朝になると痛みはほとんどなく、お菓子でも…と口にしますと、いくらでも入りました。お菓子を食べながらも、どうしてこんなに食欲があるのだろうか…と不思議でなりませんでした。すると、その日の夕方には何の支障もなく体を動かすことが出来ました。

次の日には自分一人で車を運転して支部に行くことが出来ました。この変化に支部におられた方もビックリしておりました。

私は、こうして浄霊で救われたことに感動し、初めて支部を訪れた一ヵ月後の十二月二十日に入会しました。

自然栽培を実行…

私が住んでいる所は、昔からおいしいお米の産地ということもあり、我が家も米農家として現在もお米を育てています。

これははっきりとした日時や症状を明確には覚えていないのですが、昭和五十五年頃、私が二十六歳の時に、農薬中毒のような症状になったことがありました。脈が速くなり、呼吸も苦しくなっていたのが、浄霊を受けると次第に落ち着いていきました。こうしてまた浄霊によって救われた…という有難さが、とても身に沁みました。

このような出来事もあり、一つの転機が訪れました。なんと、山鹿支部の責任者の方から「農薬や肥料を使わない自然栽培（自然農法）をぜひやってみてくれませんか」と言われたのです。その頃、私も明主様の自然農法についての話を聞いておりましたので、是非やってみたいと思っていました。

当時、田んぼは父が主となってしていましたので、父に相談するとその意見に賛成してくれ、一部の田んぼ（約六〇〇坪）から自然栽培を始めました。その後、段階的に自然栽培をする田んぼの割合を増やしていき、四十六年経った今では全ての田んぼで自然栽培をしております。

現在年齢を重ね、何事もおかげを頂いて生かされていると思うことばかりです。

一人でも多くの方が明主様に御縁を頂かれますように願っております。

また、自然栽培を通して多くの方に安心・安全のお米をお届けしたいと思っております。

（熊本県山鹿市）

浄　霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄化作用

人間には体内の毒素（＝不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

風邪

虚弱体質だった私がここまで生かされて…

総本部
中村修子（なかむらなおこ）（54）



私は、幼い頃から風邪を引きやすく、扁桃腺炎で熱を出すことも度々あったので、その都度病院に行き、薬、注射をしていました。初めの頃は、それで良くなっていたのですが、だんだんと効かなくなり、風邪を引いても治るのに二週間から三週間かかり、やっと治った…と思っていても二、三日もすれば、また風邪を引くというような状態でした。

母は医学書を読んで、いろんな方法も試しました。また、人から「良い方法があるよ…」ということを聞きますと、何でも試していましたが、結果は同じで一向に元気になりませんでした。

この時、私は小学校一年生でした。母は、あまり薬を飲まない近所の子供さんは鼻水を垂らしながらも元気に走り回っているのに、なぜ私の娘だけが虚弱体質なのだろうか…、どうしたら元気になれるのだろうか…と思い悩んでいたそうです。

楽しみだった健康新聞…

そんな時、ポストに入っていた健康新聞を何気なく読んでみたそうです。そこには浄霊という手をかざす方法と「風邪は身体のお掃除をする結構なもの」と書かれていて、母は衝撃を受けたそうです。けれども手をかざすだけで健康になれるなんて、にわかには信じられず、その後も私が風邪を引く度に薬や漢方、良いと聞くものは何でも試しました。しかし、一向に良くならず、再び健康新聞のことが気になるようになったそうです。

その頃、私が住んでいたのは住宅が多く立ち並ぶニュータウンと呼ばれる地域だったので、健康新聞が届く機会も多く、母はいつしかそれが楽しみとなり、心待ちになっていたそうです。

そして次に届いた健康新聞には「風邪の時、薬等は使用せずに楽になった…」という体験談が書かれていたそうです。母はそれを試してみようと思い、私が風邪を引いた時に、思い切って薬を飲ませずに過ごしたところ、健康新聞に書かれていた通り一週間ほどで元気になったのです。そんな私を見て、母は「本当だったんだ、もうここに行くしかない！」と、ワラにもすがる思いで新健康協会の桜井支部を訪ねました。

初めてで戸惑うところもあったそうですが、私が浄霊を受けている間、母は「病気は体内の毒素を体外へと排出する浄化作用であること」や「薬毒」についての話を聞いたそうです。その時、私を本当の健康にするには浄霊しかないと思い、この時から続けて支部へ行くようになりました。

そして、母は家でも私が浄霊を受けられるようにと思い、昭和五十三年の十一月に入会しました。

心から感謝するばかり…

おかげ様で頻繁に風邪を引くことはなくなりました。また、風邪だけでなく、ケガをした時も浄霊を受けることで、ますます元気になっていきました。そのため学校を休む回数も減っていき、楽しい学校生活も送れました。

こうした私の変化もあり、昭和五十四年の七月二十七日、私は小学二年生の時に入会をしました。そして父もその後に入会しました。

もし浄霊を知らずに、あのまま薬や注射を続けていたら私はどうなっていたんだろう…と考えますと、母が支部へ行く決断をしてくれたことに心から感謝するばかりです。母には「本当にありがとう…」と伝えたいです。

◇

私は今年で五十四歳になります。あんなに虚弱体質だったにもかかわらず、日々元気に過ごすことが出来ています。おかげ様で結婚も出来ましたので、日々支部や自宅で浄霊を受けることも出来ています。

私が、この道に導かれるきっかけとなった健康新聞を、一人でも多くの方にも読んで頂きたいと思い、私の体験談を書かせて頂きました。

病気や精神的なことで悩み苦しんでおられる方が、一日も早く明主様に御縁をいただかれますことを念願しています。

誠に有難うございました。

（福岡県福岡市）

ネパール

頭痛・めまい

不安から救われ元気な日々へ…

バクタプール支部
ヒマ・チミルセナ（58）



私は二〇〇八年、四十歳の時に、突然頭痛とめまいが出るようになりました。ちょっと歩くだけでも倒れてしまいそうな感じで、外出するのも怖くなるほどの状態でした。そのため家事も出来なくなったので、お医者さんに診せて薬を飲み始めました。

薬を飲んでいる時は、楽になるのを感じるのですが、薬をやめたら、また同じような状態になりました。その後も、健康になりたい…と思い、様々な病院に行き、約四年間、薬を飲み続けました。しかし、それでも治りませんでした。

他の病院に行くと、今度は「眼鏡をかけるように…」と勧められたので、その通りにしましたが、頭痛とめまいは治りませんでした。

私は、長い間の治療生活で心身ともに疲れていました。それでも、回復したい一心で祈祷師の所へ行って、一ヵ月間、いろいろな治療をしましたが、やはり状態は変わりませんでした。

二〇一五年五月、私が四十七歳の時、本当に回復出来るのだろうか…、これからどうやって日々を過ごしていくのか…と不安に思っていた時、近所の人が「浄霊という方法があるから試してみたら…」と声をかけ、明主様と浄霊について教えてくれました。私はそれを聞き、次の日にバクタプールの支部へ行きました。

◇

初めて浄霊を受けると、体の調子が少し良く感じたので、このまま続けてみようかと思いましたが、浄霊を受け始めて一ヵ月後に頭が辛くなりました。すると支部の方が「これは浄化作用で、体内の毒素が出ているから、浄霊を続けると良いですよ…」と話してくれましたので、私はその後も一ヵ月間、毎日浄霊を受けました。

すると、体が少しずつ楽になっているのを感じ、夜もぐっすり眠られるようになりました。

こうして毎日浄霊を受けることで私は元気になりました。そして浄霊を受けてから八ヵ月後、めまいと頭痛は完全に良くなりました。浄霊のおかげで健康になったことに心から感謝申し上げました。

私はこの感謝の気持ちから、二〇二〇年五月四日、五十二歳で入会しました。

こうして健康になれたことを家族と共に喜び、毎日不安のない生活を送る機会をくださった明主様に、心から感謝を申し上げます。

有難うございます。

（ネパール・バクタプール）



岩佐又兵衛《車争之図》

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

「祝」と同じ語源をもつ「呪」。いずれも強く願い「祈る」ことで達成しようとする行為です。本作は『源氏物語』葵巻にある賀茂葵祭、斎院御禊の行列の見物をめぐって起こった「車争い」の場面を描いたもので、この出来事こそがその後、六条御息所の「呪い」ともいえる想いを生んでしまいます。

御禊の行列に加わる源氏を見ようと、お忍びで来ていた年上の愛人である六条御息所。そこに現れた正妻の葵の上一行は、すでに混雑する見物客で駐車場所が見つからず立ち往生し、従者が他の車を立ち退かせようとします。そのなかに六条御息所の乗った車もありました。従者同士の言い合いの末、力づくで押し退けられてしまった御息所は深く傷つき、そのやるせなさから生き霊となり、葵の上を殺めてしまうのです。

右から第三扇、中ほどにみえる馬上の貴公子は光源氏。幾多の女性との恋と人生を描いた長編小説『源氏物語』の主人公です。ひときわ白い肌、優美な輪郭線の面差しが「光る君」と呼ばれた高貴な美男子をうかがわせます。左の方には争う従者たち、そして最も左下、追いやられるように描かれている網代車が御息所の車です。六曲一隻の屏風に仕立てられたこの作品は、金地に彩られ、牛車の模様や衣装など華やかな装飾が見事なだけでなく、人々の表情もそれぞれの感情がわかるほど細やかに描き分けられています。画面全体が祭事を見物する人々の高揚感に満ちており、さらにそこで群衆が起こす騒動によって躍動するようなエネルギーにあふれています。

本作は桃山から江戸時代初期頃に活躍した絵師、岩佐又兵衛が手がけたとされています。父は摂津国伊丹（現兵庫県）の有岡城主荒木村重、織田信長に反旗を翻して逃げたために一族妻子が惨殺されるなか、二歳の又兵衛は本願寺にかくまわれて命を取り留めます。京都で織田信雄などに仕えて画技と和漢の教養を身につけ、越前北之庄（福井）で絵師として二十年を過ごした後、江戸に呼ばれて徳川家や大名たちの依頼に応えました。又兵衛はこうした物語絵のほか、洛中洛外図のような都市風俗図を現実に即して生き生きと描き出し、「浮世又兵衛」の異名をとりました。つまり浮世絵の祖といえる存在です。

解説　松田愛子

晴明会館　「祈りをこめて」前期展
期間：令和8年6月9日(火)～12月5日(土)
※晴明会館お問い合わせ☎(092)661－1535

@SEIMEI_KAIKAN
晴明会館（美術館）インスタグラム

健康新聞についてのお問い合わせは（092）661－1531まで